

20周年

KENSEI

仙台的(株)健生

総合ヘルスケア事業のリーディング カンパニーを目指し、コンテンツを強化

『予防』と『対処療法』へのサービスコンテンツの開発と開拓

介護事業、整骨院事業の開業・運営支援を中心に全国規模で事業展開をしている(株)健生(代表取締役社長兼CEO・中尾充氏 本社・仙台市)が、新たなビジネスモデルの開発とNEWプロダクトの開拓を加速化させている。

中尾社長は「人が健康を維持する為には、病気や怪我をしにくい体作りの為の『予防』と病気、怪我をした場合の『対処療法』の2つに分類され、世の中には医療を始め、多くのサービスコンテンツやプロダクトが存在する。その2つ



(株)健生の中尾充代表取締役社長兼CEO

に対して、当社として何が出るかを考えた上で、サービスコンテンツ及びプロダクトの開発と開拓を行なっている」と語る。

そして「そのためにはそれぞれのサービスやプロダクトを効果的に引き出すための「multi-play」(掛け合わせ)が重要で、当社は『予防』と『対処療法』を取り入れたビジネスモデルで、総合ヘルスケア事業のリーディングカンパニーを目指している」と語る。

前述した『対処療法』に対するアプローチは、一般的にはドクターに頼らざる得ない場合が多いが、同社の手掛けるビジネスモデルの整骨院事業でも、主に痛みの緩和による『対処療法』を施術として行い、『予防』としての様々なコンテンツを提供している。

また、デイサービス事業やボデイケアサロン事業による

『予防』をメインとする、より効果的なビジネスモデルとプロダクト提供も行っている。

東北大学が開発した世界初の介護福祉機器を導入

こうしたアプローチに加えこのほど、健生が取扱うNEWプロダクトとして、地元仙台的の企業で足こぎ車椅子Profhand(プロフハンド)の開発・製造を行なう(株)TESS(代表取締役・鈴木堅之氏 本社・仙台市)との代理店契約を締結した。足こぎ車椅子Profhand



TESS

(株)健生が導入を決めたProfhand。歩行困難者でも自分の両足でペダルをこぎ、自由に走り回ることができる最先端のチェアサイクル(足こぎ車いす)。東北大学大学院医学系研究科が開発、国内で5000台以上の導入実績を持っている

ndとは、東北大学大学院医学系研究科客員教授・半田康延博士グループが開発開発した世界初の介護福祉機器で、脳卒中で半身が麻痺した方、腰痛、膝関節痛などで歩行困難な方でも、ニューロモジュレーション作用(ニューロン神経、モジュレーション調整)により、自身の両足でペダルをこぎ、自由に走り回ることができる最先端のチェアサイクル(足こぎ車いす)である。Profhandは全国の医療施設、介護施設を中心に

5000台以上の導入実績があり、糖尿病を患う方の下肢の体循環の改善やパーキンソン病の歩行障害が改善した例などもあり、国内外から非常に高い評価を受けている。

今秋にも、加盟店にパッケージ商品として提供

この秋をめどに、既存のProfhandにオプションとして、室内で自走体験ができるバーチャルシステムの提供を開始、(株)健生で展開する機能訓練型デイサービスのスマートFC加盟店(開業・運営支援モデル)にパッケージ化する事で、『CGT(包括的高齢者トレーニング)+ニューロモジュレーション』という新しいケアビジネスモデルを展開する予定である。その際、オプション部分に、健生のノウハウ、コンテンツをmulti-play(掛け合わせ)させた、特別仕様の共同開発も検討している。

●問い合わせ先
株式会社健生
〒980-0004
仙台市青葉区宮町3-5-20
KENSEI-BLDG
TEL
0120-143-271
URL
http://www.kensei-group.jp